

高校地理プリント（過去問類似）

人口・都市・生活文化 No.5

名前

得点

/9

問1 ラテンアメリカでは、大航海時代以降の歴史的背景から多様な混血が進んだ。このうち、かつてサトウキビプランテーションなどの労働力としてアフリカから連れてこられた人々と、ヨーロッパ系の入植者との間に生まれた混血、およびその子孫を指す呼称は何か。西インド諸島やブラジル東部において、全人口に占めるその割合が比較的高いことで知られている。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. カボクロ 2. ムラート 3. メスチソ 4. サンボ

問2 アフリカ大陸の南端に位置し、金やダイヤモンドなどの豊富な鉱物資源を背景に高い経済発展を遂げた国がある。この国では、1950年時点の約40%から2015年の約65%へと、全人口に占める都市住民の割合が上昇を続けてきた。アフリカ諸国の中では比較的高い都市化の水準を示す、この国の名称を答えよ。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. チュニジア共和国 2. カメルーン共和国 3. 南アフリカ共和国 4. 南スーダン共和国

問3 近世のヨーロッパにおいて、火砲の発達という軍事技術の変化に対応し、死角をなくして防衛力を高めるために、星型の濠や強固な障壁で周囲を囲んだ都市の形態を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 植民都市 2. 宗教都市 3. 城郭都市 4. 自治都市

問4 東南アジアのある国では、国全体で高い人口増加率が維持されている。そのため、地方都市や農村部でも人口が増え続けており、そこからの人口押し出し圧力によって、今後も流入が継続すると予測されている、この国の首府を中心とする大都市圏はどこか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ジャカルタ大都市圏 2. ハノイ大都市圏 3. マニラ大都市圏 4. バンコク大都市圏

問5 日本に居住する外国籍住民のうち、近代以降の歴史的経緯から日本に定住し、数世代にわたって国内で生活している人々が大きな割合を占める。近年、このグループは高齢化や日本国籍の取得（帰化）が進んでいることなどを背景に、登録者数が緩やかな減少傾向にある。この人々の主な国籍・地域として最も適当なものはどれか。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. フィリピン 2. 中国 3. 韓国・朝鮮 4. ブラジル

問6 イギリスの一部であり、アイルランド島の北東部に位置する地域で、同国への残留を望むプロテスタント（主にイギリス系入植者の子孫）と、隣国への統合を望むカトリック（主に先住民系）との間で、長年にわたり激しい対立が続いた地域はどこか。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 東ウクライナ 2. 北コーカサス 3. 北アイルランド 4. 沿ドニエストル

問7 ヨーロッパ諸国による植民地支配は、被支配地域の文化や社会に大きな影響を与えた。旧宗主国と旧植民地の間で主要な信仰宗教が共通している事例として、かつてスペインの支配を受け、現在もキリスト教のカトリックが広く信仰されている南米の国が挙げられる。この国はどこか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. パラグアイ 2. ベネズエラ 3. アルゼンチン 4. ウルグアイ

問8 日本において、人口の急激な減少と高齢化の進行により、地域社会の維持や生活機能の確保が困難になった状態、あるいはその地域を指す言葉を何というか。こうした状況にある地域や島嶼部では、本土の大都市へのアクセスが困難なため居住する市町内で日常の購買行動を行う割合が高くなる傾向がある一方、児童数の減少により小学校において異なる学年の児童を1つの学級に編制する割合が高くなり、さらに医療資源の偏在から人口当たりの医師数が少なくなるなどの社会的特徴が見られる。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 流入 2. 過密 3. 流出 4. 過疎

問9 1950年代という世界的に極めて早い段階から、人口増加を抑制するために国家規模で「家族計画」が導入・実施されたものの、多産を好む伝統的な価値観や農村部での労働力需要などから十分な効果は上がらず、近年中国を抜いて世界最多の人口を抱えるに至った南アジアの国はどこか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. シリア 2. インド 3. イラク 4. イラン

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 2 ムラート	大航海時代以降、カリブ海地域（西インド諸島）やブラジル東部では、サトウキビプランテーションの労働力としてアフリカから多くの黒人奴隷が連れてこられた。そのため、ヨーロッパ系（白人）とアフリカ系（黒人）の混血が進み、その人々や子孫は「ムラート」と呼ばれるようになった。なお、先住民（インディオ）とヨーロッパ系の混血は「メスチソ」、先住民とアフリカ系の混血は「サンボ」と呼ばれる。
問2	答え 3 南アフリカ共和国	経済発展や社会変化に伴って農村から都市への人口移動が進み、都市人口率が1950年の約40%から2015年には約65%へと上昇した。この国はアフリカ大陸で最も工業化が進んだ国の一つであり、アフリカの他国と比較して都市化の水準が高い特徴を持つ。ただし、イギリスやアルゼンチンなどの高度に都市化が進んだ国よりは低い水準にとどまる。
問3	答え 3 城郭都市	大砲の出現と発達に伴い、従来の垂直な石壁をもつ城壁は脆弱になったため、近世ヨーロッパでは死角をなくし、砲撃の衝撃を緩和するために星型の濠や土塁を備えた要塞（城郭都市）が築かれた。周囲の濠は敵の侵入を防ぐ防御施設としての役割を果たしていた。これらは近代以降、都市の拡大に伴って取り壊され、環状道路などに転用されることが多かった。
問4	答え 3 マニラ大都市圏	フィリピンでは、地方都市や農村部でも人口増加が継続しているため、首都マニラを中心とする大都市圏への人口流入圧力が依然として高い。このように、地方での人口増加が都市へのさらなる人口流入を促す構造となっている。
問5	答え 3 韓国・朝鮮	近代以降の歴史的経緯により日本に定住することとなった人々やその子孫は、日本の外国人住民の中で歴史的に大きな存在感を持ってきた。しかし、近年は世代交代に伴う日本国籍の取得（帰化）や高齢化などの要因により、外国人登録者数（在留外国人数）としては微減傾向にある。これに対し、近年増加が著しいのは中国やベトナムなどの国籍である。
問6	答え 3 北アイルランド	17世紀以降のイギリスからのプロテスタントの入植により、先住のカトリックとの間で社会的な格差や対立が生じた。20世紀後半には武装組織によるテロを含む激しい紛争に発展したが、1998年の和平合意（ベルファスト合意）によって和平プロセスが進められた。
問7	答え 3 アルゼンチン	スペインの植民地であったアルゼンチンでは、宗主国の影響を強く受け、現在でもキリスト教のカトリックが広く信仰されている。一方で、イタリアの植民地であったリビア（イスラム教）、オランダの植民地であったインドネシア（イスラム教）、フランスの植民地であったベトナム（仏教など）のように、植民地支配を受けながらも旧宗主国とは異なる宗教が多数派を占める国々も存在する。
問8	答え 4 過疎	人口の急激な減少と高齢化によって地域社会の維持が困難になる現象を過疎と呼ぶ。過疎地域や離島では、本土や大都市への移動に時間と費用がかかるため、島内や町内での買い物割合が高くなる。また、少子化に伴う児童数の減少により、小学校で複数の学年を一つの学級にする複式学級の割合が高くなる。一方で、高度な医療機関は大都市圏に集中するため、人口当たりの医師数は大都市に比べて少なくなる傾向がある。
問9	答え 2 インド	1950年代から世界に先駆けて国家的な家族計画を導入した国はインドである。伝統的な価値観や農村の労働力需要から出生率の低下は緩やかであり、人口増加が続いた結果、2023年には中国を抜いて世界第1位の人口大国となった。